

日本には日本独自の暦こよみ（昔から伝わるカレンダーのようなもの）があります。

暦の上で季節を二十四に区切っていました（二十四節季）。つまり、「春」だけでも六つの季節があるということです。それぞれの時季に見られる風景はさまざまでした。



教科書38ページを見ると二月から四月の終わりごろまでの季節を表す言葉が載っています。

○「立春」りっしゅん 「雨水」うすい 「啓蟄」けいちつ 「春分」しゅんぶん 「清明」せいめい 「穀雨」こくう

それぞれの節季の説明を声に出して読んでみましょう。

風景が想像できましたか。

○これらの季節が想像できる短歌や俳句があります。声に出して読んでみましょう。

木立こだちより 雪解けのしづく 落つるおと

聞きつつわれは 歩みをとどむ

齋藤茂吉

啓蟄あひの 虻あひはや花粉 まみれかな

星野立子

掘り返すほ 塊つちくれ光る 穀雨かな

西山泊雲

清明の 水菜みずな齒こたえ よかりけり

鈴木真砂女

あなたが感じた「春」の風景を俳句や短歌にしましょう。(どちらでもよし)

五月に入り、暦の上では実は「夏」なのですが

つくるときの約束

一 俳句(五・七・五)の十七音 短歌(五・七・五・七・七の三十一音)

二 季語を一つ入れる(節季の言葉でもOK)



(よくある質問)

- ・音なので、声に出して数えてみましょう。(例えば、「学校」は二文字ですが、ひらがなにすると「がっこう」の四文字。でも声に出すと「がっ・こ・う」の三音です)
- ・「字余り」「字足らず」といってぴったりの音にならなくてもいいです。(あんまり大きく違うとだめです。その場合、声に出したら変な感じがするかもしれません)
- ・NGな言葉「たのしいな」「きれいだな」「うれしいな」感じたことを書かなくても伝わるのが俳句や短歌です。風景を表すにはどんな言葉がいいか、吟味してください。
- ・季語とは季節を表す言葉です。季節に咲く花、季節に見られる虫、行事、その季節にしか見られないものはすべて季語です。季語は一つ。
- ・できたものも、言葉をかえたり順番をかえたりして、自分しか使わない言葉でつくりかえて工夫をしましょう。

書きたいイメージ

使いたい言葉

いくつか作ってみましょう。一番いいものに○ 家族に聞いて一番を決めてもいいですよ